

～KAC便い～

★2017年 夏号★



皆さんこんにちは！

今回のKAC便いは、最近当院でも症例の多い誤飲と、これからの季節、気になる熱中症についてです。

うちの子が誤飲した！！

まずは落ち着いて、いつ、何を、どれくらい誤飲したのかを把握してください。

今は元気な場合でも中毒症状や腸閉塞など大変な事態になることもあるので、少しだから…と様子を見ずにすぐに動物病院で診てもらいましょう。

誤飲に対しての処置は様々です。どのような処置があるのか紹介します。

催吐処置

誤飲後間もない場合や、吐かせることが可能と判断されたものはまず催吐処置を行います。

メリット：体の負担が少ない・低コスト・迅速な処置

デメリット：催吐すると危険な物もある・誤飲後3時間以上経過すると困難

内視鏡

適応条件

- 異物が胃の中にあり内視鏡でつかめるもの
- 胃の中に食べ物が少ない
- 動物が小さすぎない
- 全身麻酔をかけられる状態である

メリット：吐かせると危険な物でも安全にとれる

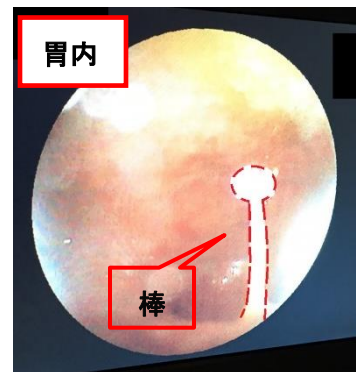
デメリット：全身麻酔が必要・必ず取り出せるか確証はない

開腹手術

適応条件

- 催吐・内視鏡ができず、便に出る可能性が低い
- 放置することで穿孔や胃腸にダメージを引き起こす可能性が高いもの
- すでに胃腸のダメージや閉塞が疑われるもの

メリット：腸まで流れたものや大きいものでも摘出できる。



プラスチックの棒を誤食した症例
内視鏡にて摘出

デメリット：全身麻酔が必要・負担やリスクが大きく入院も必要

動物の状態や誤飲したものなどで、どの処置を行うかを判断していきます。
飼い主様からの情報も重要になってきますので、些細な事でも教えてください。

家の中にある誤飲しやすい物

動物たちは、時として予想だにしないものを口にしてしまいます。誤飲は家族が気を付けることで防げる事故です。

チョコレート中毒や玉ねぎ中毒などは有名ですが、家の中には他にも危険な物がいっぱいあります。

•ゴムやクリップなどの小物

→消化されずに胃に残ったままになったり、形状によっては内臓を傷つけてしまう可能性がある。

•紙類・布類・ラップやビニール袋

→一度に大量に食べてしまったり、日常的に食べていると腸閉塞になる可能性がある。

•紐状のもの

→腸に詰まって腸閉塞を起こしたり、絡まって内臓を傷つけてしまうこともある。口やお尻から先端が出ていても無理に引っ張らない。

•タバコ・吸い殻

→ニコチンによる中毒症状がでる可能性がある

•鳥の骨や焼き鳥の串

→加熱された鳥の骨は噛むと細く裂けるため、先が尖って内臓を傷つけてしまうので危険。串や爪楊枝も食べ物の匂いが付着しており誤飲注意。先端が鋭利な物は催吐処置不可。

•人形などのおもちゃ

→人形はボタンなどのパーツや中綿などを食べてしまうケースが多い

•電池・磁石

→電池は内臓壁に張り付いたり、中の化学物質が漏れて火傷のような症状を引き起こす危険がある
→磁石は2つ以上を飲み込むと腸壁を挟んで引き合い、腸に穴が開く危険性がある

•殺虫剤、除草剤、医薬品、化粧品、洗剤、漂白剤

→中毒を起こす可能性が高い。飲み込んだ物質によって処置が異なるため、何を飲んだか分かっている場合、ボトルを持参しましょう

•草花・観葉植物

→特にバラ科、ゴリ科、ナス科、ツツジ科、トウダイグサ科、キンボウゲ科の植物は要注意

•梅干や桃などの種

→殻が硬く、消化されずにずっと体内に残ることがあり、急に移動して腸閉塞を起こすことがある



1円硬貨を誤食した例

異物が詰まる場所

・食道

犬の場合もともと食べ物を丸呑みにする習性があります。通常なら自分で吐き出すことが出来ますが、完全に詰まってしまうと吐きたくても吐けず、気道を圧迫して呼吸困難に陥る場合があります。

・胃

胃の出口(幽門)は意外と狭く、少し大きなものはここで詰まる場合が多いです。幽門部で詰まると、頻回に嘔吐がみられます。

・腸

幽門を通過できても腸で詰まることがあります。腸で詰まったままにすると腸閉塞を起こし、その部分の腸が壊死することがあり命に関わります。

どの場所にどんな異物があるか、どの程度閉塞しているのかを知るために、造影検査を行います。



十二指腸に異物があり完全に閉塞している



胃内に異物があるが閉塞はしていない

造影検査の結果も併せて内視鏡か開腹手術か、また緊急か否かを判断します。

小さなものを誤飲した場合には運が良ければ便とともに排泄されます。

動物病院で経過観察とされた場合でも、食べて12時間以降の便はほぐしてチェックしましょう。胃に残っていると慢性胃炎の原因になることもあるため、便に出たか否かは今後の大きな分かれ道となります。

数日経っても出ない場合や元気食欲がなくなってきたなど変わった様子があればすぐに動物病院を受診しましょう。(獣医師 原口 桜)



気を付けて、熱中症には注意！！



だんだん日差しも強くなって暑い日が続いていますね。こんな時期に注意したいのが熱中症。人としては過ごしやすい5、6月からでも熱中症になることがあります！大切なペットのために熱中症の事を理解しましょう。



熱中症をおこすのは？

強い日差しを長い時間浴びると熱中症になるというのはみなさん知っていると思いますが、お部屋の中でも湿度、温度が高いところでは熱中症を起こします。

外飼いの子や、毛の長い子は特に注意です。また、鼻の短い短頭種(シーズーやブルドック、ボクサーなど)や小型犬(チワワやミニチュアダックスフントなど)も異変を起こしやすいです。

熱中症になると？

体温があがり、呼吸をはあはあと口を開けて呼吸を始め、症状がすすむと嘔吐(おうと)や下痢、ふらつきがみられます。症状が進むと最悪の場合、死に至ります。

熱中症になってしまったら

あれ？おかしいなと思ったら、体を冷やしながら、病院へ連れて行きましょう。

熱中症になってしまわないように予防が重要です。

おうちでのお留守番などは気温によってエアコンを利用してください。特に車の中に放置することは死亡原因になります。またお散歩は日差しの強い時間はさけて、早朝や夕方に行きましょう。実際に地面のコンクリートを触って熱くないか確認しましょう。

散歩時に冷却グッズを利用したり、運動後やお散歩中に水分補給ができるように、折り畳み式の水皿なども活用しましょう。暑さ対策を十分にしておこの夏を安全に乗り越えましょう！

(動物看護師 小野寺 爽葵)

夏休みのペットホテル

混みあいますので、
ご予約は、お早目に！！



2017年6月13日発行



金町アニマルクリニック

東京都葛飾区金町

2-29-6 KACビル

☎ 03-3609-7517

永代橋アニマルクリニック

東京都江東区永代

1-9-1

☎ 03-5875-8771